

ハドロキッズチーム 2019 年度第 1 回開催

「むかわ町で化石を楽しく科学して、将来の古生物学者への道をめざそう！」をテーマとする「むかわ町子ども化石くらぶ（ハドロキッズチーム）」の 2019 年度の活動が始まりました。

道内の小学 2～6 年生 46 人が入会し、5 月 12 日（日）に開催された第 1 回目の活動には 38 人が参加しました。

開会式では竹中喜之町長、小坂利政町議会議長の挨拶に続いて、中田幸宏恐竜隊員（地域おこし協力隊）・西村智弘学芸員（むかわ町穂別博物館）から、ハドロキッズチームの年間活動や野外活動の服装などについての説明が行われました。



開会式の様子

開会式後、むかわ町穂別博物館に徒歩で移動し、低学年クラス（2～3 年生）と高学年クラス（4～6 年生）に分かれ、博物館バックヤード探検とアンモナイト研磨をしました。

博物館バックヤード探検では、いつもは見るできない収蔵庫・化石クリーニング作業場・学芸員の研究室を見学しました。収蔵庫では、展示しきれないホベツアラキリュウ（クビナガリュウ）全身骨格、研究中の首が短いクビナガリュウ化石、むかわ竜（むかわ町穂別産）化石などが収蔵されているところを見学したほか、むかわ竜の実物化石を触ることもできました。化石クリーニング作業場では、クリーニング道具とクリーニングのやり方を見て、学芸員研究室では論文や博物館だよりを執筆している現場を見学しました。ここでも、研究中の化石をたくさん見ることもできました。



博物館バックヤード探検。普段は入れない収蔵庫。バックヤードは少し狭かったですね。



むかわ竜化石をやさしく触りました。一生の思い出になったのではないのでしょうか。

アンモナイト研磨では、アンモナイトの殻の中を見るために、小型の北海道産アンモナイトを紙やすりで削りました。アンモナイト研磨は次回の宿泊合宿でも引き続き行う予定です。



アンモナイト（右）の研磨は、紙やすり（左）を使って削っていきます。

開会式・博物館バックヤード探検・アンモナイト研磨では、博物館職員に加えて博物館ボランティア、鶴川高校恐竜研究同好会（ボランティア）に協力してもらい、指導や安全管理を行っていただきました。



第2回は宿泊合宿（6月8・9日、6月15・16日）です。化石採集のため小川を歩く予定です。お天気がいいといいですね。

地域おこし協力隊 中田幸宏・穂別博物館学芸員 西村智弘